

事例番号:280271

原因分析報告書要約版

産科医療補償制度
原因分析委員会第二部会

1. 事例の概要

1) 妊産婦等に関する情報

1 回経産婦

2) 今回の妊娠経過

特記事項なし

3) 分娩のための入院時の状況

妊娠 37 週 4 日

9:45 既往帝王切開で予定帝王切開のため入院

4) 分娩経過

妊娠 37 週 4 日

13:35 帝王切開により児娩出、骨盤位

5) 新生児期の経過

(1) 在胎週数:37 週 4 日

(2) 出生時体重:2216g

(3) 臍帯動脈血ガス分析:pH 7.27、PCO₂ 58mmHg、PO₂ 37mmHg、

HCO₃⁻ 26mmol/L、BE -2mmol/L

(4) アプガースコア:生後 1 分 8 点、生後 5 分 8 点

(5) 新生児蘇生:実施せず

(6) 診断等:

出生当日 出生直後から多呼吸・呻吟あり、状況変わらず NICU へ搬送

低出生体重児、新生児一過性多呼吸の診断

生後 5 日 経皮的動脈血酸素飽和度の低下や活気不良を認める

生後 1 ヶ月 哺乳の進み悪く、活気なし

(7) 頭部画像所見:

生後 28 日 頭部 CT で異常なし

生後 3 ヶ月、1 歳 4 ヶ月、3 歳 8 ヶ月 頭部 MRI で進行性の脳萎縮を認める

6) 診療体制等に関する情報

(1) 診療区分:診療所

(2) 関わった医療スタッフの数

医師:産科医 2 名

看護スタッフ:助産師 2 名、看護師 1 名、准看護師 1 名

2. 脳性麻痺発症の原因

脳性麻痺発症の原因を解明することが極めて困難な事例であるが、先天異常の可能性も否定できない。

3. 臨床経過に関する医学的評価

1) 妊娠経過

妊娠中の管理は一般的である。

2) 分娩経過

(1) 帝王切開当日の管理は一般的である。

(2) 臍帯動脈血ガス分析を実施したことは一般的である。

3) 新生児経過

(1) 出生直後より多呼吸・呻吟を認めたため、経皮的動脈血酸素飽和度モニター装着、酸素投与を実施したことは一般的である。

(2) 生後 55 分経過しても症状の変化なく集中的な加療が必要と判断し、高次医療機関 NICU へ搬送したことは一般的である。

4. 今後の産科医療向上のために検討すべき事項

1) 当該分娩機関における診療行為について検討すべき事項

なし。

2) 当該分娩機関における設備や診療体制について検討すべき事項

なし。

3) わが国における産科医療について検討すべき事項

(1) 学会・職能団体に対して

原因不明の脳性麻痺の事例集積を行い、その病態についての研究を推進することが望まれる。

(2) 国・地方自治体に対して

なし。